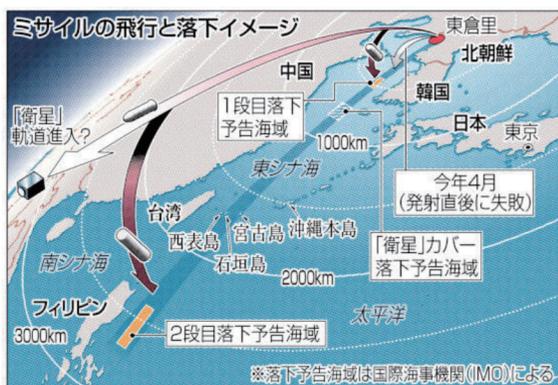




北朝鮮ミサイル発射

沖縄上空を通過

フィリピン沖落下か



【ソウル共同】日本政府は12日、北朝鮮が同日午前、人工衛星打ち上げとして予告していた長距離弾道ミサイルを北西部東倉里の「西海衛星発射場」から発射したと発表した。沖縄・先島諸島上空を通過した可能性がある。発射が確認され

ば空中爆発して失敗に終わった4月以来。落下地点や被害の有無は不明。国連安全保障理事会決議は北朝鮮に弾道ミサイル技術を使った発射を禁じており、国際社会の反発は必至だ。日本政府は米国や韓国と連携、制裁強化を検討する。

北朝鮮は今年10日、発射予告期間の延長を発表していたが、一転、早期の発射を強行した。金正恩第1書記は「衛星」打ち上げにより国威発揚を図ると同時に、大陸間弾道ミサイル(ICBM)の開発能力を誇示し、体制維持に向けて米国との直

接交渉につなげる狙いがあるとみられる。日本の防衛省はミサイルの切り離し技術や射程など分析を急ぐ。北朝鮮は1日、17日に死去1年となる金正日総書記の「遺訓」として、東倉里から10〜22日の間に地球観測衛星「光明星3号」を3段式の運搬ロケット「銀河3号」で南方向に打ち上げると発表。10日に予告期間を29日まで延長していた。国際機関への事前通告では切り離した1段目が韓国西方沖の黄海、2段目がフィリピン東方沖の太平洋に落下すると予告した。

政府は本体や破片が日本領域に向かってきた場合に備え、周辺海域に海上自衛隊のイージス艦を展開。地対空誘導弾パトリオット(PAC3)を沖縄や首都圏に配備し迎撃態勢を整えていた。



4月、北朝鮮が人工衛星打ち上げと主張して公開した長距離弾道ミサイル。北朝鮮北西部・東倉里